



RYUKOKU  
UNIVERSITY

You, Unlimited



広報誌「龍谷」

2024 VOLUME 98

先端理工学部 沖野 匠吾 さん

Ryukoku

## Brand Story

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、  
将来の予測が難しい時代となっています。  
いま必要なことは、「学び」を深めること。  
「つながり」に目覚めること。  
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。  
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。  
それが、私たちが大切にしている  
「自省利他」であり、「まごころ」です。  
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、  
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、  
より良い社会を構築するために。  
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、  
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。  
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、  
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、  
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。  
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。  
龍谷大学が動く。未来が輝く。

**You, Unlimited**





## 01 P01 Feature Article

### 巻頭特集 学長対談

ソーシャル・グッドな社会をめざす共創

コミュニティバンク京信

理事長 龍谷大学学長

榊田 隆之 × 入澤 崇

## 02 P06 Ryukoku News

基本構想400第2期中期計画 2024-2027年

瀬田キャンパスに共創を促す新施設 他

## 03 P12 People, Unlimited

提灯の明かりに導かれ、

一人の学生の行動により伝統行事が復活

富塚 康幸 さん 文学部

### P14

被災地で知った町と人の思いを「忘れない」

「伝える」ためのボランティアを

蔵本 千優 さん 社会学部

### P16

希少なニホンミツバチが救う

豊かな自然と人の暮らし

沖野 匠吾 さん 先端理工学部

## 04 P18 Education, Unlimited

お寺を地域の交流の場に

新しい在り方を学生が企画・実践

猪瀬 優理 教授 社会学部

古莊 匡義 准教授 社会学部

### P22

清少納言が目をとめた「三稜草のすだれ」

手作業で真実を再現

三浦 励一 准教授 農学部

## 05 P26 Research, Unlimited

一人では更生はできない

人や社会との「繋がり」が犯罪を防ぐ

矯正・保護総合センター長

浜井 浩一 教授 法学部

### P30

負担軽減と危険回避をかなえる

人にやさしい水中ロボットを追究

坂上 憲光 教授 先端理工学部

## 06 P34 Event Ryukoku Museum

ほとけに従うものたちの多種多様な姿と

存在意義に光を当てる

見学知都世

龍谷ミュージアム リサーチアシスタント

## 07 P36 Connect, Unlimited

龍谷大学をつなぐ対談

学生の斬新なアイデアに驚き

“龍谷DX”を推進するハッカソン開催

ソフトバンク株式会社

デジタルエンジニアリング第3統括部長 龍谷大学 副学長

村田 拓郎 さん × 松木平 淳太 教授

## 08 P40 My Campus

マイキャンパス

## 09 P42 News & Topics

最新情報

## 10 P48 Book Café

新刊紹介

# 01

## Feature Article 巻頭特集 学長対談

コミュニティ・バンク京信  
理事長

龍谷大学学長

榎田 隆之 × 入澤 崇



# ソーシャル・グッドな社会をめざす共創

龍谷大学は2023年、京都信用金庫と大阪ガス都市開発株式会社(代表事業者)の3者で「共創HUB京都コンソーシアム」を組織。2027年、京都駅前に大学・金融・不動産デベロッパーがタッグを組むイノベーションハブ拠点「共創HUB京都」が完成する。この共創HUB京都について、本学の特別講義にもお招きする京都信用金庫榊田理事長と入澤学長が今後の期待を語り合った。

**入澤:** 龍谷大学は、社会課題解決に向けて、官民学の連携を強化しています。連携には「同じ志」が重要なことから、御庫の企業理念には大変共鳴している次第です。

**榊田:** ありがとうございます。我々が掲げる企業理念は「地域のコミュニティ・バンク」です。金融機関の本来の使命は、融資促進や利益追求ではなく、京都の街や人に寄り添い、ともに良い社会を築いていくことです。とくに現代社会においては、世の中全体が共同体となってチャレンジしていかなければ、山積する課題解決やSDGsの目標達成を実現することはできないのではないのでしょうか。

**入澤:** おっしゃる通りです。そういった意味では、共創HUB京都は理想的な共同体であり、ソーシャル・イノベーションを次々と起こすはずです。多様な学生や社会人などの交流を促す本学のサテライトキャンパス、スタートアップ支援に特化した御庫の支店や、交流型の学生寮と賃貸マンションを備える点が画期的です。

**榊田:** 昨今はダイバーシティ=多様性、インクルージョン=包摂性という言葉で表されますが、様々な人々、機関が集結することでこそ、イノベーションは創出されます。

**入澤:** 私は、榊田理事長のご縁によって、日本インド文化経済センターというNPO法人が共創HUBに参画することも喜んでます。仏教の発祥地・インドと本学の繋がりは言うまでもありません。仏教はインドから、現在のパキスタンやアフガニスタンの一部を含むガンダーラ文化圏を経て、シルクロードを通じて中国、朝鮮半島へ伝わり、日本に伝来しました。その間、多様な国、文化、人々と遭遇することで、仏教にも「イノベーション」が起こりました。例えば、お釈迦様は偶像崇拜を禁じていましたが、他国の庶民にまで、仏教を伝承・浸透させるには、わかりやすい形が必要になってきたことから、仏像が生まれました。

**榊田:** なるほど、仏像造像は課題解決のためだったとも言えますね。インドとの繋がりという点で、実は私の子どもがインドに暮らしているのですが、瞬間に現地の公用語であるカンナダ語をマスターしたのです。本人も不思議に感じたようで、文献をあたって、カンナダ語と同じ南インドの言葉であるタミル語と日本語は文法や音韻などが類似していることがわかり、そのためスムーズに覚えられたのではと申しておりました。

**入澤:** 日本語のタミル語起源説は賛否両論がありますが、私は学習や教育においては、異論にも耳を傾け、分析や考察を深めていくことが重要だと思います。

**榊田:** 共創HUB京都でも龍谷大学の学生の皆さんをはじめ、次世代の若者が有機的な議論を繰り広げてほしいですね。同一化、画一化していない多様性にあふれながら、お互いの考え方や価値観などを認め合う共同体となることを希望します。

**榎田 隆之**

上智大学外国語学部を卒業。1985年に京都信用金庫入社、2018年に理事長就任。徹底的な対話型経営により「日本一コミュニケーションが豊かな会社」を目指す。1971年に「コミュニティ・バンク」を世に提唱した金融機関の理事長として、地域の経済や文化の形成への想いを込める。



#### 入澤 崇

龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

**入澤:**多様な共同体の相互理解について、本学政策学部の学生3人が在学中に立ち上げたベンチャー企業・株式会社RE-SOCIALを事例にお話しします。彼らは授業の一環として獣害被害の実地調査をおこないました。そこで捕獲・処分される大量のシカやイノシシに衝撃を受け、命を無駄にしないためにジビエ(野生鳥獣の食肉)の加工・流通を始めます。当初、地域住民は彼らをなかなか受け入れなかったのですが、対話を重ね、3人がシカやイノシシに手を合わせて命と真摯に向き合う姿を見て、次第に理解が深まり、今では住民の皆さんが快く協力してくださっています。

**榊田:**素晴らしいですね。我々が注力する地域コミュニティの形成にも通じる取組ではないでしょうか。ソーシャル・イノベーションやソーシャル・ベンチャーは、社会的にインパクトのある革新的な研究や技術、これらにともなうスタートアップのみを示すものではありません。生きとし生けるもの全てにやさしいソーシャル・グッドを実現する取組もその1つであり、私は今もっとも欠かせない領域だと思っています。課題解決の手法を提案した株式会社RE-SOCIAL 3人のアントレプレナーはもちろん、私は入澤学長から社会課題解決に取り組む学生のお話を伺うたびに、龍谷大学には「思いやり」を醸成する風土が確立されていることを実感します。

**入澤:**ありがとうございます。龍谷大学は「自省利他」を行動哲学に掲げ、授業やプロジェクトにも浸透しているからでしょう。「自省利他」の利他は、他者との関係性を重んじ、他者の幸福に資することを考え行動すること。相手を理解する、今風の言葉だとリスペクトと言われる、相手を敬うことも含まれます。

**榊田:**実社会でのフィールドワークベースで学び、体験することは、社会課題解決や地域創生の必要性が学生の心により強くひびき、今すぐ行動しなければと、起業も視野に入ってくるのではないのでしょうか。ソーシャル・グッドをめざす領域において、ベンチャー・スピリッツを持った若者はまさに宝物です。

**入澤:**私は、社会課題解決に向けて立ち上がる若い人がますます増えているを感じています。しかも様々な課題を自分事としてとらえて、解決の道をしなやかに探り、我々の思考を超えたレベルでのアイデアを形にしています。この良い兆しを進化させるためにも、大学をはじめとする教育機関と教育者は、榊田理事長がおっしゃったような実践的な探究型教育の推進、多様性を尊重し、異なる価値観を持つ人々と協働する機会の提供がいっそう必要であると肝に銘じています。

**榊田:**共創HUB京都が若い人たちが一歩前へ進むことができる場になるよう、私たちもバックアップしていきます。そこで、僭越ながら、龍谷大学の学生の皆さんにメッセージを送りたいと思います。私は“Nothing ventured, Nothing gained”という言葉が好きで、モットーにしています。「冒険せずには得るものもない」という意味です。人への思いやりを忘れずに、世の中を良くするために、どんどんアクションを起こしてください。何度失敗しても構いません。そうすれば、人々の幸せや課題解決の目標が成し遂げられるはずでしょう。

**入澤:**私も共創HUB京都に集う若者のために力を尽くしていきます。実はそこに暮らす人たちの相談役にもなれるよう「学長」の後「寮長」になれることを密かに夢見ております。

# 02 Ryukoku News

基本構想400第2期中期計画 2024-2027年

## サステナビリティへの「旅」

— 変革の加速へ —

Frontier of Change: Quest for Sustainability



龍谷大学基本構想400 特設サイト  
<https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/>

# 基本構想400の概要

龍谷大学は、2020年度より、創立400周年を迎える2039年度までの20年間に及ぶ長期計画「龍谷大学基本構想400」を定め、これに基づく諸改革に取り組んでいます。

この基本構想400は、環境変化などに柔軟かつ機動的に対処するため、具体的な施策は1期4年の「中期計画」として取り纏め、それを5期にわたって積み上げることとしています。

## 基本構想400でめざす大学像(2039年の将来ビジョン)

「まごころ〜Magokoro〜」ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる「壁」や「違い」を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる。

### 【まごころ〜Magokoro〜とは?】

人間は自己中心的であり、真実を見誤る存在です。固定的な自己というものはなく、数限りない「縁」から自己を形成しています。こうした周囲との「関係性」に目を向け、「自己中心性」から脱却して、新たな関係を築くことで社会のために貢献する。このような嬉しい「思い」をもって、自らのありようを省みるとともに、他者との関係性を重んじ、他者の幸福に資することを考え行動する志を「まごころ〜Magokoro〜」と定義する。

## 第2期中期計画 基本戦略

2024年度から2027年度にかけては、第1期中期計画<2020-2023年度>の成果と課題を踏まえて策定した第2期中期計画<2024-2027年度>を推進しています。

第2期中期計画では、構想400で掲げる2039年の将来ビジョンへの達成を加速させるべく、新たな「4つの事業テーマ」と、それにもとづく「21のアクションプラン」を掲げることにしました。

### 改革の方向性

#### 第2期中期計画の位置づけ

- 1 「サステナビリティへの『旅』—変革の加速へ—」(Frontier of Change: Quest for Sustainability)を副題とし、旅(≒体験×共創×挑戦)を足掛かりに、価値創造へ
- 2 第3期中期計画以降の18歳人口激減期を見据え、第2期中期計画を「変革」を加速させる重要な4年間として位置付ける

#### 事業の枠組み

- 3 環境変化を踏まえ4つの事業テーマを設定。そのもとにアクションプランを掲げる
- 4 アクションプランを探索型と深化型に区分し、既存事業を深化させながらも同時にイノベーションを創発

#### 実効性向上

- 5 アクションプランを徹底的に精選するとともに、「2027年度の到達点」を明確化(到達点に向けた具体的な事業推進計画については、各部署の内発的・主体的な検討も尊重)
- 6 5の他にも、アクションプランを下支える要素として「実効性を高めるための諸施策」(事務組織改革・業務の構造改革等を含む)を講じる

### 事業テーマ

<b>A 価値創造の推進</b> A-1 社会課題の解決拠点化 A-2 研究の高度化と社会実装の強化	<b>B 体験価値向上</b> B-1 環境変化に対応する教育プログラムの開発と教育方法の高度化 B-2 ひとりひとりに寄り添った学生支援体制と多様な体験の促進
<b>C 経営革新</b> C-1 価値創造を促進する組織への転換／人材のトランスフォーメーション C-2 意思決定の高度化とレジリエントな運営体制の構築	<b>D 共創空間の創出</b> D-1 多様な価値観が集うキャンパスの実現 D-2 キャンパスデザインの構築と戦略的広報化



## 瀬田キャンパスに共創を促す新施設 「Green Deck」「Sky Deck」「Rest Nest」が誕生

龍谷大学では、長期計画「龍谷大学基本構想400」が2024年度から第2フェーズに入り各種取り組みを加速させていきます。その一環として、各キャンパスでの新棟建設や学び・交流を深める場の整備を推進しています。

そして、この度瀬田キャンパスに学生や研究者等の共創を促す新施設として、ウッドデッキ「Green Deck(グリーンデッキ)」「Sky Deck(スカイデッキ)」、教育研究用一時休憩施設「Rest Nest(レストネスト)」を整備しました。

2024年7月4日、新施設の完成を記念して、オープニングセレモニーを開催。学内者をはじめ、滋賀県や大津市の行政関係者、地域の方など100人を超える多くの方々に参加されました。樹心館でのオープニングセレモニーの後、参加者を対象とした、施設のコンセプト説明や見学会をおこないました。

「Green Deck」は、みんなで育む“樹のフォーリー”としてグリーンハウスの愛称で親しまれてきた礼拝施設「樹心館」の横に整備。後ろには森が控え、学生の往来も多い場所。人・自然・歴史を紡ぎ、共創を実現する新たなシンボルとなっています。その名称は、ウッドデッキ周りの開放的な緑空間を表現するとともに、今後本学が注力する「ネイチャーポジティブ」のイメージを反映しています。

「Sky Deck」は、2号館の中庭を改修。中庭の中心にある樹木を囲むように配置し、空を眺め、降り注ぐ木漏れ日を感じることができるよう空間となっています。その名称は、中央から見上げる空や、立ち上がって未来を見据えるイメージを表しています。

今回のウッドデッキの材料には、滋賀県産木材「びわ湖材」を活用することで、木の温も



「Green Deck(グリーンデッキ)」

りを感じるとともに、CO<sub>2</sub>吸収・削減による地球温暖化防止につながっています。また、木材調達に負担をかけない規格材を中心に用い、金物を使わない伝統工法を採用しました。

「Green Deck」の植栽は、先端理工学部と農学部の連携事業により、仏教の五色をモチーフに緑・黄・赤・白・紫の植物でデザインされており、学生も主体的に施設整備に参画しました。

さらに、学生用の教育研究用一時休憩施設「Rest Nest」は、2号館1階を改修し、カプセルベッド20床やシャワー設備、ラウンジなど

を整備。「無印良品」の家具や「今治タオル」のアメニティなどを採用しています。「Rest(休息する)」+「Nest(巣)」を組み合わせた名称は、深夜まで実験・実習や研究活動に取り組む学生がゆっくりとくつろぎ、休憩することができる心地よい場所となるよう名づけました。学生の教育研究成果が向上することを期待しています。

今後も瀬田キャンパスは、共創を実現するキャンパスとして地域の特性を活かした価値創造や社会変革を牽引する拠点をめざしていきます。



「Sky Deck(スカイデッキ)」



「Rest Nest(レストネスト)」

# 深草キャンパスの建物8棟に太陽光パネル増設 2024年4月から稼働開始

龍谷大学は、深草キャンパス既存の建物8棟の屋根に太陽光発電パネルを増設し、2024年4月より本格的に稼働を開始しました。今回の設置による発電容量合計は460kW、年間想定発電量合計は551,336kWhです。これに伴い、深草キャンパスで使用する電力の約4%をまかなう予定で、年間で243トンのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。

本学では、2022年1月に「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を発出。国が目標とする2050年に先駆け、本学が創立400周年を迎える2039年までにカーボンニュートラルを実現することをめざしています。本学深草キャンパスが立地する京都市は国が進める「脱炭素先行地域」に選定され、「京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させ

るゼロカーボン古都モデル」の創出に取り組んでいます。本事業は、その1つとして「グリーン人材育成及び同拠点の脱炭素転換」を実施する本学が「京都市脱炭素先行地域づくり事業補助金」を活用して太陽光発電パネルを設置したものです。今般の設置とあわせて深草キャンパスで使用する電力の約85%が龍谷ソーラーパークまたは本学設置の太陽光パネルからの供給となります。



## 深草キャンパスに上空通路が架かる

2025年4月に社会学部を瀬田キャンパスから深草キャンパスに移転し、社会科学の集積拠点として生まれ変わる深草キャンパス。「深草を森にする」をコンセプトに、教育研究環境を整備するための大規模施設整備を進めています。施設整備の一環として、これま

で一般道路で隔てられていた北エリアと南エリアをつなぐための上空通路（歩道橋）が2024年7月に架かりました。上空通路により、シームレスに一体化することで、南北一体となった教育・研究エリアの実現をめざします。上空通路は引き続き2025年3月の竣工に向けて、整備を続けます。



深草キャンパスでは、加えて4つの新棟と1つの既存施設を改修しています。本学の施設整備の詳細については、龍谷大学キャンパス特設サイトに掲載しています。

龍谷大学キャンパス特設サイト  
<https://www.ryukoku.ac.jp/campus/fukakusa-campus/>



# 「龍谷の森」が関西私立大学で初めて 環境省の「自然共生サイト」に認定

2024年3月に、龍谷大学が所有する「龍谷の森」が環境省の「自然共生サイト」に認定されました。環境省は、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現および30 by 30目標（2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標）の達成に向け「自然共生サイト」の認定をおこなっています。

「龍谷の森」は、本学瀬田キャンパスに隣接する水平面積約38haの里山林。希少種を含む里地里山に特徴的な動植物種が多く生息生育しており、大学の教育研究と連携した里山管理と里山保全をおこなっています。本学が1994年度に土地取得以降、独自の生態系を有し生物多様性を維持していることが認められ、自然共生サイト認定に至りました。

また、学生向けのフィールドワーク実習の

場や「里山学研究センター」の研究フィールドとして活用され、大学教育だけでなく、小中高等学校の教育や社会人教育も含めて、サイト全域を環境教育の場として活用している点も高く評価されました。これにより、「龍谷の森」の生物多様性の価値の維持や質の向上がより一層促進され、本学が長期計画「龍谷大学基本構想400」で掲げる持続可能な社会の実現に大きく寄与することが期待できます。



# 先端理工学部「環境生態工学課程」は「環境科学課程」へ 2025年4月より新名称に変更

先端理工学部の「環境生態工学課程」は、生態学や環境工学などの枠にとらわれず、より広い視野で「環境科学」分野の教育・研究を展開するため、2025年4月より「環境科学課程」に名称を変更します。

「環境生態工学課程」は、人と自然が共生する持続可能な社会を構築していくための、生態学に立脚した自然の理解および環境工学的な課題解決アプローチを学修し、この学修を通じて、様々な環境問題に積極的に取り組み、創造的に課題解決の方法を提案できる人材の育成を目的に開設しました。

環境領域を構成する分野として、森林生態、湖沼・河川生態、生物多様性、環境共生、都市環境テクノロジー、環境インフラ、環境モニタリング、SDGsなど環境保全・改善の問題に対し、多角的に検索・検証・解決する学問領域を体系的に教育・研究しています。

この度の新名称「環境科学課程」は、環境の様々な側面を自然科学の領域から俯瞰するという意味合いを持つことから、教育課程内容を適正に表現することができるため、高校生や受験生が教育内容等をよりイメージしやすくなる効果があると期待しています。



5年ぶりに復活した提灯行列

# 03 People, Unlimited

文学部歴史学科 4年生  
第103回龍谷大学創立記念降誕会協議会 学生代表  
京都府立鳥羽高等学校出身  
富塚 康幸 さん



## 提灯の明かりに導かれ、 一人の学生の行動により伝統行事が復活

5月21日の親鸞聖人御生誕を創立記念日とする龍谷大学では、1922年から学生主催の「龍谷大学創立記念降誕会」がおこなわれてきた。そのなかのメインイベント「提灯行列」は、1976年から続く伝統行事だ。親鸞聖人の教えを後世に伝える象徴として西本願寺に絶えず灯されてきた常燈明にちなみ、学生たちが提灯の明かりを灯しながら、行列を歩くことで、建学の精神を身近に感じられる。円山音楽堂から八坂神社前、四条通、四条河原町、河原町御池まで、龍谷大学の文字が浮かぶ赤い提灯を手にした学生たちが練り歩く行列は見もの。市民や観光客にも京都の恒例行事になっていた。コロナ禍により2020年から中止を余儀なくされたが、2024年、5年ぶりに復活。200人の学生・教職員に吹奏楽部やバトンチアが加わった華やかな行列の先頭に立った龍谷大学創立記念降誕会協議会の学生代表、富塚康幸さんは、実行委員が1人になっても伝統行事の復活に向けて動き出した。

富塚さんは入学してすぐ、入学前から親交のある先輩に誘われて実行委員会に入会。

「ただ、新入生は私だけで緊急事態宣言によって提灯行列は中止。オンラインで講演会やトークショーを開催しました」

翌年以降も提灯行列開催の目処は立たず。卒業などでメンバーが去り、3年生になる頃、たった1人になった富塚さんは「100年以上続く降誕会を消滅させるわけにはいかない。何としても提灯行列を復活させる」と、会の学生代表として奮い立つ。まず提灯行列について資料を調べ上げ、会の卒業生に開催方法などをヒアリング。協力してくれる学生も集めた。

「大変なこともありましたが、せっかくやるのであれば楽しくと思い、親鸞聖人の御生誕を演出するプロデューサー気分で行組みました」

あきらめずに、降誕会を継承する使命感を胸に力を尽くした富塚さんによって、出番を待っていた提灯に、ついに明かりが灯った。

「私にとって最初の提灯行列であり、最後の降誕会に、『陽爛漫（ひかりらんまん）』というテーマを掲げました。提灯の明かりが多くの人々の心も照らし、忘れられない思い出になってほしいとの思いを込めたのですが、自分自身がそれに最も当てはまりました。参加者からたくさん嬉しいコメントをもらいました。ここまでやり遂げた経験と、提灯が灯った時の感動、協力してくれた人への感謝を決して忘れず、これからの人生を歩んでいきます」



珠洲市飯田町で地域住民と一緒に泥で埋まった側溝の清掃をする学生たち

## 03

## People, Unlimited

社会学部 現代福祉学科 3年生  
 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター 学生スタッフ  
 東海大学付属大阪仰星高等学校出身  
 蔵本 千優 さん



## 被災地で知った町と人の思いを「忘れない」 「伝える」ためのボランティアを

元日に発生した「令和6年能登半島地震」。甚大な被害に龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（以下センター）は支援活動を即開始。募金活動や、これまで3回の現地でのボランティア活動をおこなっている。

ボランティア専門の部署を設置し、地域団体など学外と繋がって多様な活動を調整する専任のコーディネーターが常駐する大学は稀で、高校時代からボランティアに関心があった学生スタッフの蔵本千優さんは「龍谷大学進学理由の1つになりました」と言う。

能登での現地支援では、蔵本さんは2回目の活動に参加。石川県輪島市の視察と津波に襲われた石川県珠洲市飯田町での復旧作業に従事した。1・2年次にセンターが継続して実施する東日本大震災復興支援活動の一環である福島県と宮城県でのプログラムに参加し、ボランティア活動や災害について学んでいたが、発生間もない被災地に入ることには不安や緊張があったと蔵本さん。火災にも見舞われた輪島朝市通りの状況に愕然。飯田町でおこなった泥で埋まった側溝の清掃では、大量の泥に津波の恐怖を感じたと言う。「必死に作業をしていると、住民の方に声をかけられました。地震のこと以外に、地元の

お祭りや町の人のことを教えていただいたおかげで不安や緊張がほぐれました。私からも学生生活のことなどをお話すると楽しい時間が過ごせたと喜んでくださいました」。能登半島は「静かな被災地」と称され、マンパワー不足が報道等で指摘されている。「ただ、懸命に復興に向かわれている住民やボランティアの方々がいるということを考えずに、支援が遅いと言ってはいけないと思いました」

蔵本さんは活動後の学内報告会で、報道と現場の乖離を発表。ボランティアは住民と親交を深め、気持ちに寄り添える貴重な機会でもあることも伝えた。すると、一般の学生から「現地で違いを確かめたい」「地元の人と交流したい」との反響があった。そこで蔵本さんは現地で学び得たことをもっと知ってもらおうと、地域のNPOや現地で活動した学生とともに『非常食食べておはなし会』と題したイベントを企画・開催。非常食を味わいながら、現地での交流の必要性と、町の魅力や人々の様子を楽しく伝え、語り合った。

「住民にとっては被災地ではなく、大切な故郷であること、誰もが訪れたいと思える素敵な町、人がいることを『伝える』活動も続けていきたいです」



穏やかな性格でめったに人を刺すことはないニホンミツバチを世話する沖野さん

## 03

## People, Unlimited

先端理工学部 機械工学・ロボティクス課程 3年生  
清風高等学校出身

沖野 匠吾 さん



## 希少なニホンミツバチが救う 豊かな自然と人の暮らし

花々を飛び回り、ハチミツなどの恵みをもたらすミツバチ。日本には蜜の採取のために家畜化した外来種のセイヨウミツバチと、在来種で野生のニホンミツバチが生息しているが、様々な環境問題からニホンミツバチの数が激減している。このニホンミツバチの養蜂に本学のサークル「日本ミツバチ研究会 Bee わーこ!」の39人が取り組んでいる。

きっかけは課程の学籍番号が前後の沖野匠吾さんと平松裕亮さんの祖父が偶然ニホンミツバチの養蜂家で、よく手伝っていたことからサークルを設立。3人の学生が加わり、セイヨウミツバチを研究する農学部の古本強教授を顧問に、滋賀県大津市のNPO法人「日本ミツバチ保護の会」の興裕将一氏と2人の祖父の指導のもと、2023年5月、瀬田キャンパスに隣接する「龍谷の森」に巣箱を設置した。

「しかしミツバチは簡単に入居してくれなくて、6月に興裕さんから群れの入った巣箱をいただきました。夏の猛暑とオオスズメバチの来襲でハチたちが巣を逃げ出してしまって。祖父に報告すると、常に注意を払い、愛情をかけるようにアドバイスされました」

沖野さんたちは活動内容を見直し。新たに寄贈されたハチを守るため、巣箱へ通う頻度

を増やし、観察や清掃を入念におこなった。また、一般団体「龍谷の森・里山保全の会」と連携し、草刈りなど巣箱の周辺を整備。ところが近年養蜂家を悩ませる外来種のダニがハチに寄生し、全滅した。

「ショックでしたが、その巣箱からわずかに採れたハチミツの味が忘れられなかったので、あきらめずに新たに18個の巣箱を作りました。ハチが入りやすい形状を考え、設置場所も工夫したところ、1つの巣箱に入居がありメンバー全員が感激しました」

ミツバチは世界の食糧生産の約1/3の受粉を担うと言われている。つまり、ミツバチの減少は人類の食糧問題に直結しているということだ。とくにニホンミツバチは様々な花から蜜を集めるため、多くの作物の受粉に役立つとされる。

「ニホンミツバチが生きやすい森や里山の環境を蘇らせることが重要で、そうすれば人間の生活もより豊かになるはずだと考え、今では「龍谷の森」の手入れや草花の植栽に力を注いでいます。初めはハチミツの採取が目標でしたが、養蜂を通じて環境問題に目を向けるようになりました」と、沖野さんはこれからもニホンミツバチに愛情を注いでいく。

# 04

## Education, Unlimited

社会学部  
猪瀬 優理 教授

社会学部  
古莊 匡義 准教授



滋賀県守山市覚明寺の「みんなの笑顔食堂」の様子



## お寺を地域の交流の場に 新しい在り方を学生が企画・実践

### 地域に根ざしたお寺に触れる

学生が社会と繋がるフィールドでの学びを何よりも重視し、課題の発見や解決に向けての実践力を養うことで、ともに生きる喜びやしあわせを地域や人々に創出する人材を育む社会学部。この徹底した現場主義を象徴する全学科共通科目が「社会共生実習」である。社会の課題を深く知り、連携先と解決をめざす、複数のプロジェクトがあり、学生が自分の興味や目標に合わせて選択。前期・後期の受講でさらに深く取り組みたくなれば、2年、3年と継続できる。

「お寺の可能性を引き出そう！—社会におけるお寺の役割を考える—」プロジェクトでは、地域での寺院の役割を寺院活動への参加を通して考え、学生主体の企画を実践していく。

「お寺では経典や仏様の教えが実際にどのように受け止められ、実践されているのか、といったリアルな側面も現場で体験してほしいため、寺院に赴いての学びを起案しました」と実習担当者の古荘准教授は語る。

共同担当者の猪瀬教授は「宗教は社会の変動を映し出す鏡のような存在でもあり、お

寺という具体的な場から社会を広く、深く見ること、社会課題に気づいてほしいと、プロジェクトを進めています」

この猪瀬教授の言葉通り、現在、多くの寺院が様々な課題を抱えている。実は、全国にある寺院の数は、コンビニエンスストアの数を上回るのだが、過疎化や少子高齢化、葬儀の簡素化などの影響から、檀家との関係だけでは寺院の維持が困難になり、2040年には1/3の寺院が消滅する可能性があるとも言われている。

「寺院存続には次世代のお寺への関わりが不可欠ですが、お寺は怖い、縁遠いという若者が大半。だからこそ、学生自身がお寺との繋がりを考え直す実習に意味があるのではないのでしょうか」と古荘准教授。

もちろん、寺院も直面する問題をただ傍観しているわけではない。檀家に限らず地域住民との関係構築を求め、子ども食堂や高齢者サロンの運営、仏教行事以外のイベント開催などに取り組む寺院が増えている。そこで、前期実習の前半では、新たな存在意義や可能性を見いだす寺院の事例研究とフィールドワーク、僧侶を招いての講義を実施。学生たちは「お寺の今」を把握していく。



地域におけるお寺の役割について意見を交わす授業の様子

## 自分たちがお寺離れの若者だった

前期実習の後半では、学生の考える問題に合った寺院をリサーチし、自分たちで交渉。現在、複数の寺院の活動に参画している。

その一つ「清光山西正寺(兵庫県尼崎市)」は、カレーを食べながら異文化に触れ、交流を図る催しのカレー寺をはじめ、ユニークな取組が特徴の寺院。「治田山 慈眼院 西方寺(滋賀県草津市)」は、自由に演奏できるストリートピアノを境内に3台も設置するなど「開かれたお寺」をめざしている。学生たちはこのような各寺院で開催されるイベント運営に携わり、訪れる地域の人たちと交流を重ねている。

こうした取組を通じて、学生たちは「自分がお寺に足を運んだこともなく、近寄りたいたいと壁を作っていた存在だった」と痛感。後期実習では、各自の関心にしたがって、寺院と連携して企画を進めていく。例えば2023年度の受講生は西方寺で「お釈迦様になんかしてほしい願い」を子どもたちに書いてもらうメッセージボードを設置し、お釈迦様や仏教について楽しく伝えたという。

「学部で社会福祉や地域貢献について学ぶ学生もいるので、お寺が地域の繋がりやサポートの場として多大な役割と可能性があることを知り、自分たち若い世代ができることはないかと考えるようになります」と学生の



### 猪瀬 優理

北海道大学大学院文学研究科行動科学博士課程修了。独立行政法人日本学術振興会特別研究員、北海道大学文学研究科助教を経て、2011年に龍谷大学社会学部社会学科に着任。講師、准教授を経て2021年より現職。専門は宗教社会学。現地調査を基にジェンダー、世代間継承、地域社会など幅広い問題を研究する。著書に『信仰はどのように継承されるか—創価学会にみる次世代育成』（北海道大学出版会、2011年）などがある。



### 古莊 匡義

京都大学大学院文学研究科思想文化学専攻博士課程修了。大谷大学真宗総合研究所特別研究員などを経て2016年に龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科専任講師として着任。2022年より現職。専門は宗教学、現代フランスの宗教哲学、日本宗教思想。著書に『綱島梁川の宗教哲学と実践（龍谷大学国際社会文化研究所叢書）』（法蔵館、2022年）などがある。

変化を評価する猪瀬教授。「実習に参加したら終わりではなく、お寺での学びや気づきを学術的に考察し、将来に役立つ知見とすることもめざしています」と古莊准教授。過去には、『サードプレイス（第三の居場所）としての寺院』というテーマで卒業論文を書いた学生や、卒業後も寺院と関わり、地域活性化をめざす卒業生もいるという。

現在、若者が気軽に立ち寄れるお寺カフェや音楽ライブを実施する寺院と関係を構築中。「自分たちの発想をこのプロジェクトで思う存分、表現してほしい。“お寺に新しい風を吹き込んでほしい”と願う寺院の未来を照らすのは、学生です」と、2人は期待を寄せる。

# 04 Education, Unlimited

農学部  
三浦 励一 准教授

4 質の高い教育を  
みんなに



## 清少納言が目をとめた「三稜草のすだれ」 手作業で真実を再現

「ミクリで、すだれはできるのか？」が発端

古来、空間の仕切りや目隠し、日よけとして重宝されてきた「すだれ」。平安時代、竹または葦(ヨシ)で作られた御簾(みす)は貴族の家屋の必需品だった。一方庶民は、「三稜草(ミクリ)」という植物で作ったすだれをかけることがあったらしい。『枕草子』では清少納言が郊外を訪れた際に「三稜草のすだれ」を見て、田舎らしい風情を感じたことを記している。この「三稜草のすだれ」を古典注釈書や国語辞典はミクリという水生植物の茎で作ったすだれと説明している。

このミクリは現在、準絶滅危惧種になっている。農学部の三浦励一准教授は瀬田キャンパス近くのびわこ文化公園にこの植物が生育しているのを発見して違和感を覚えたという。「ミクリは大して背が高くないし、茎はクネクネしていて、とてもすだれを作れそうにないのです。様々な文献をあたると、細見末雄氏の『古典の植物を探る』では、ウキヤガラという別の植物で作っていたのではとの仮説が挙げられていました。調べてみると確かに江戸時代までの書物で「みくり」とよばれている植物は現在のミクリではなくウキヤガラをさ

していることがあります」

三浦准教授の気づきに関心を持ったゼミの4年生、藤本剛輝さん、李恩注さんが卒業研究のプロジェクトとして、古名で「みくり」と言われていたウキヤガラを使い、当時の技術で「三稜草のすだれ」の再現に取り組んだ。

藤本さんは琵琶湖の周辺を100カ所以上探し回り、冬枯れのまっすぐに伸びたウキヤガラをよりすぐって約200本を採取。李さんはすだれを編む糸にこだわった。当時は木綿ではなく野生植物の繊維が使われていたのではと考え、クズを使ってみることにした。国立民族学博物館(大阪府吹田市)の上羽陽子准教授(専門は染織研究)に指導を仰ぎ、茹でたクズのつるを池の水に漬け、日陰で発酵させる古来の技法で繊維を取り出し、燃りをかけて糸を績(ひ)む作業をおこなった。

すだれを作るための材料が揃ったところで「京すだれ」川崎(京都府亀岡市)に協力を得て、藤本さんと李さんが職人の指導のもとウキヤガラの茎とクズの糸ですだれを編み上げた。「完成品は黒い色むらが素朴で、親しみを感じました」と三浦准教授。「千年前、清少納言が愛でた風情を再現できたのでは」と、2人は達成感を得られたと言う。



職人の手ほどきを受け、クズの繊維で作った糸でウキヤガラの茎をすだれに編んでゆく藤本さん(左)と李さん(右)



千年の時を越えて再現された「三稜草のすだれ」を手にする三浦准教授

## 先人にならうネイチャーポジティブを

藤本さんと李さんの調査と実践、関係者の協力によって、『枕草子』の「三稜草のすだれ」は、ミクリではなくウキヤガラで作られていた可能性が高いことが実証された。このような実践は当時の人々の暮らしをのぞく小さな窓のひとつと三浦准教授は言う。

「文系・理系の専門分野の領域にとらわれず、疑問に思ったことを掘り下げ、広げていくことが大切だと学生には伝えていきます」。三浦准教授のこの教えを、藤本さんは「琵琶湖周辺でウキヤガラの生育に適した環境自体が減ってきているらしい」、李さんは「糸をとる複

雑な工程を現代的に簡略化しようとしたがうまくいかなかった。どうやってこんな方法にたどりついたのか」と、自分なりの問題意識につなげている。

自然と共生する新たな国際目標の実現に向けて『龍谷大学ネイチャーポジティブ宣言』を発売した龍谷大学の瀬田キャンパスには龍谷の森をはじめ豊かな里山が広がる。

「ネイチャーポジティブという環境への影響を避けることと考えられがちですが、日本の人里の生物多様性は、人が手を加えることで豊かになってきた側面が多くあります。古くからの自然と人との共存にならった日本流のネイチャーポジティブを進めていくことが大



切ではないでしょうか」と三浦准教授は提言する。

「雑草学」が専門の三浦准教授は、現在、農地を水田と畑に交代で使う田畑輪換（でんばたりんかん）の雑草防除・管理について、滋賀県農業技術振興センターと共同調査を推進。ゼミ生は雑草の分布調査、作物と雑草の競合メカニズムの分析、雑草の食用利用など多様な研究に取り組んでいる。

「雑草を含め多種多様な植物とふれあうなかで多くのことに気づき、学んでほしい」と、三浦准教授と学生たちはフィールドとラボと図書館を行き来しながら植物とのつきあい方を追究し続けていく。



三浦 勳一

京都大学農学部卒業。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。専門分野は雑草学、植物保護科学、生態・環境、農業技術史、文化人類学・民俗学。京都大学農学部助手、京都大学大学院農学研究科助手、同講師を経て2015年より龍谷大学農学部准教授に就任。日本雑草学会理事・用語委員長。

# 05

## Research, Unlimited

矯正・保護総合センター長  
法学部  
浜井 浩一 教授

### 一人では更生はできない 人や社会との「繋がり」が犯罪を防ぐ

#### エビデンスをもとに矯正・保護を推進

龍谷大学には日本の大学で唯一の刑事政策に関する教育・研究機関「矯正・保護総合センター」がある。浄土真宗本願寺派の教誨師<sup>※</sup>の歴史を踏まえ1977年、本学は法学部に「矯正課程（現在の矯正・保護課程）」を開設。刑務所・少年院などで社会復帰を手助けする専門職やボランティアを育成する。その後2002年に「矯正・保護研究センター」を開設。2010年にはこれらを統合し、教育・研究・社会貢献を総合的に推進する一大拠点として本センターを設立した。学生・社会人合わせて、これまで4万人強が受講。警察官や刑務官、法務教官、保護観察官などの専門職業人を輩出するとともに研究年報等の出版、矯正・保護教育の講師派遣、政策提言などをおこなうことにより社会貢献を果たしている。

本センター長を務める浜井浩一教授は法務省所属時に少年鑑別所、少年院、少年刑務所、刑務所、保護観察所など矯正・保護のほぼ全ての現場を経験した「実務家」出身。国内外の研究機関やアメリカの大学院で犯罪学や刑事司法の領域から矯正・保護を追究してきた「研究者」でもあり、現場と研究の両軸を持つこの分野では希有で貴重な存在だ。

浜井教授は、事実や事象の科学的な分析と統計に基づくエビデンスから、より有効な犯罪・再犯防止対策を構築・提言している。

「多数の犯罪者と接しましたが、ほとんどが社会的に孤立し、虐待、精神障がい、差別、薬物依存、失業、ホームレスといった生きづらさを抱えていました。人や社会との「繋がり」の有無が犯罪に走る分かれ目となっていることは実証されています」と、浜井教授は2006年の下関駅放火事件を事例に挙げた。犯人は当時70代の知的障がい者。身寄りがなく放火などを繰り返し、人生の大半が刑務所の出入りだった。刑期満了で出所したものの行く当てがなく刑務所に戻るために事件を起こした。

「刑法犯の検挙者の約半数は再犯者です。社会復帰の支援と居場所の提供ができてさえいれば、刑務所に戻る必要はなかった。厳罰化は犯罪抑止にならないという研究結果も出ており、罪を犯した人の更生は犯罪を減らすためにも重要な要素となります。罪を悔い改める反省は一人ですべてでも、更生は一人では不可能なのです」

いかにして犯罪と再犯を防ぐか。司法と福祉の連携、社会の理解・包摂が重要であり、本センターがそれを促す役割を担うと浜井教授は強調する。



1 貧困をなくそう



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



※**教誨師**(きょうかいし):矯正施設で被収容者の希望に応じて宗教的説話をおこなう宗教者。浄土真宗における教誨師の歴史は古く、明治5(1872)年に真宗大谷派の僧侶が名古屋監獄で在監者の改過遷善のために説教をおこなったことに始まる。

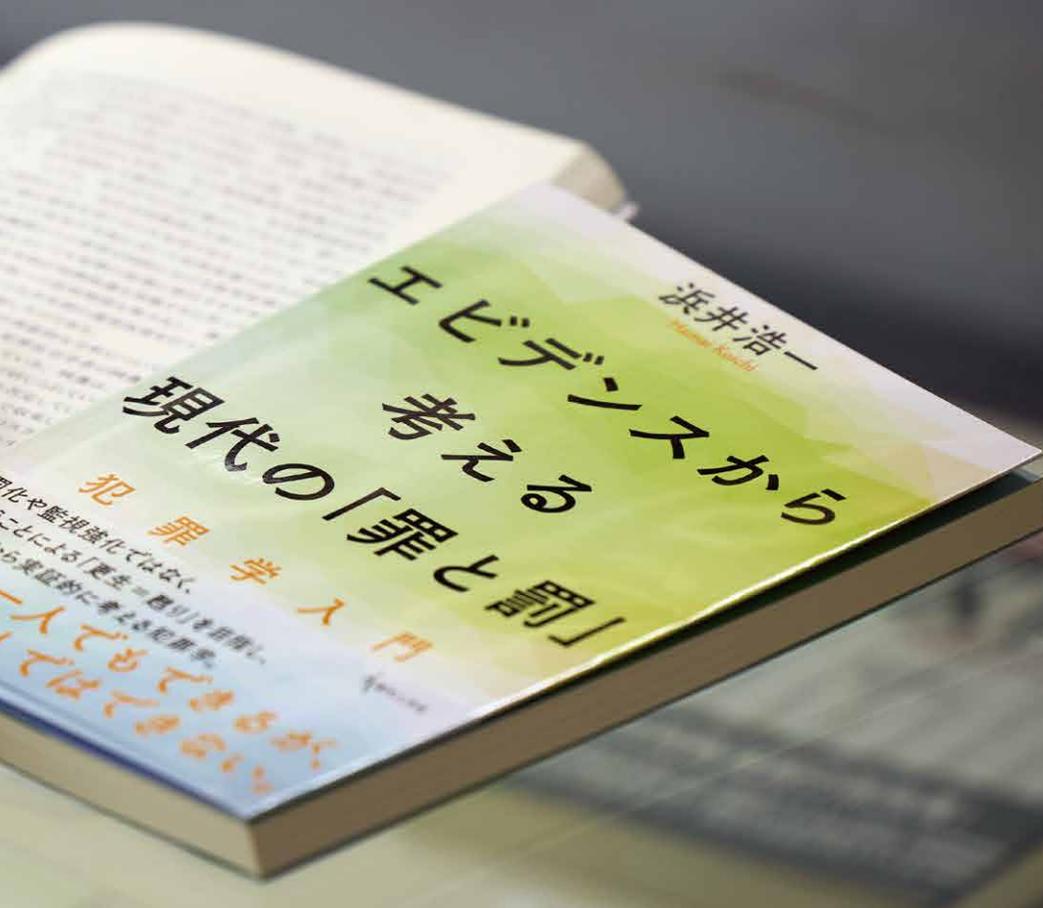


## 司法、福祉、市民も一丸となって

高齢者の犯罪・再犯の増加は、日本の課題を浮き彫りにしている。「高齢犯罪者が著しく増加している先進国は日本だけです。70歳以上の増加が顕著で、軽度・重度の認知症を発症している受刑者も多く、刑務所内では受刑者同士による老老介護がおこなわれています」と浜井教授。これらの受刑者が出所後、生活保護の受給も介護施設の入所もできず、社会で居場所がないために刑務所へ逆戻りするケースが数多く見られた。こうした事実を浜井教授らが明らかにしたことで、2009年、法務省と厚生労働省が連携し、地域生活定着促進事業が開始。出所後すぐに福祉に繋ぐ道

筋ができた。また、2016年、国および地方公共団体に再犯防止策実施の責務を明示した「再犯の防止等の推進に関する法律」が公布・施行され、浜井教授は滋賀県や奈良県の再犯防止推進計画の策定に協力している。

2023年には闇バイトの実態を探るNHKのアンケート調査に専門家として協力し、全国の少年院587人の回答を分析した結果、青少年犯罪に新たな社会問題が見えてきた。「回答者の20%が闇バイトの経験があり、遊ぶ金がほしかったが動機の大半です。『働いても稼げない』『日本にはやりがいや希望がないので闇バイトはなくなるらない』という回答に、闇バイトがビジネスモデルになりかねない懸念と、まっとうに働けば、誰もが幸せになれる社



会の構築が急務であると痛感しました」

浜井教授は日本の矯正・保護は道半ばであり、「繋がり」が重要だという。「イタリアやノルウェーでは科学と人道的観点から受刑者に寛容な制度、更生・社会復帰を促すプログラムを確立しています。犯罪者は私たちの隣人となって戻ってきます。その時、市民と社会はどうするのか。孤立させないように繋ぐことが立ち直りに不可欠です。これは本学の建学の精神に通じます。『因縁生起』、人は縁なしでは存在しえず、縁を失うことで自己中心性に陥る。仏教の教えと犯罪学の基本には共通点があります。現代社会において刑事政策や矯正・保護がこれらをどう実現していくのか、私の今後の研究テーマです」



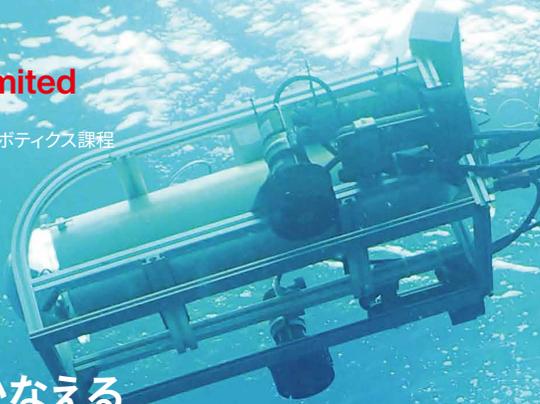
浜井 浩一

早稲田大学教育学部卒。法務省入省。刑務所や少年院などの矯正施設、保護観察所や矯正局に勤務。南イリノイ大学大学院派遣留学。法務総合研究所研究官、在イタリア国連犯罪司法研究所研究員を経て、2005年龍谷大学大学院法務研究科着任。2017年、法学部教授。2019年より矯正・保護総合センター長。厚生労働省社会保障審議会障害者部会専門委員、総務省「今後のICT分野における国民の権利保障等の在り方を考えるフォーラム」構成員などを歴任。2020年から日本犯罪社会学会会長。

# 05

## Research, Unlimited

先端理工学部 機械工学・ロボティクス課程  
坂上 憲光 教授



## 負担軽減と危険回避をかなえる 人にやさしい水中ロボットを追究

### 遠隔操作型と自律型の融合を推進

普段、目にする機会は少ないが、社会で重要な役割を果たしている「水中ロボット」。港湾建設や船舶の維持管理、インフラ設備点検、水産業、災害対応、極地調査など、様々な分野で活用されている。近年は、地球最後の未開の地とも称される深海を探索する水中ロボットの開発が加速。欧米では海底油田やエネルギー資源、鉱物資源の探索のための水中ロボットに国家や企業などが巨額の資金を投じ、マーケットも拡大している。

先端理工学部の坂上憲光教授は、幼少期からモノづくりが好きで、大学では機械工学を専攻。そこでロボティクスの分野に出会い、所属した研究室の指導教員の「ますます発展する水中ロボットの実用化に向けてチャレンジしよう」という言葉に感銘を受けて、水中ロボットの研究・開発活動をスタートさせた。

「水中ロボットは、大きく2つに分類されます。1つは自律制御機能やAI機能を搭載し、自らの判断で動くことができる自律型の水中ロボット。もう1つは船上や陸上とケーブルで繋ぎ、オペレーターが操縦する遠隔操作型の水中ロボットです」

坂上教授の研究・開発対象は、遠隔操作型の水中ロボットである。水圧や水流の影響をものともせず、安定かつスムーズに稼働させるための機構や制御機能の研究・開発、水中作業で役立つロボットアームなどの設計、さらに研究室のプールや瀬田キャンパスから近い琵琶湖での検証試験など、水中ロボットに関する多くの要素技術の開発に取り組む。そのなかで昨今注力していることが、操作のアシスト技術の研究・開発だ。現状、遠隔操作型の水中ロボットの運用はオペレーターの操縦技術に左右されるところが大きい。しかし、直接目に見えない場所にいる水中ロボットの操作は難しい。しかも波や風で揺れる船上では酔いの影響もあり、操縦の難易度が上がる。そこで自動車の自動運転システムの開発と酔いの解消を研究する、国立奈良先端科学技術大学院大学の和田隆広教授と協働。遠隔操作型と自律型を融合した新たなスタイルの水中ロボットの実現をめざす。

「自動運転であれば、オペレーターの負担軽減に加え、作業の自動化も図れます。コントローラーに搭載したアシスト機能によって操縦者のトレーニングとスキルアップに繋がる可能性がある」と、坂上教授は先を見据える。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



14 海の豊かさを守ろう



Feature Article

People, Unlimited

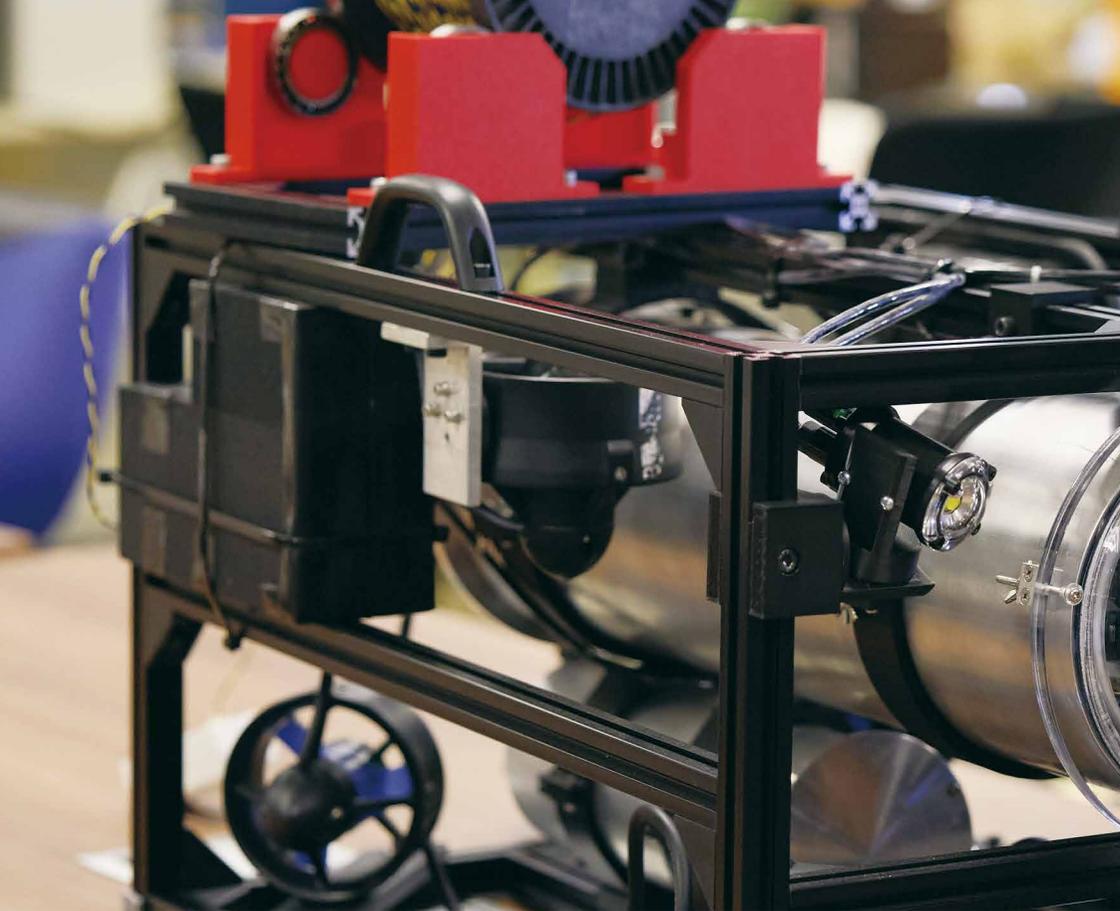
Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics

沖縄県石垣市で海底遺跡の映像記録をおこなう水中口ポット



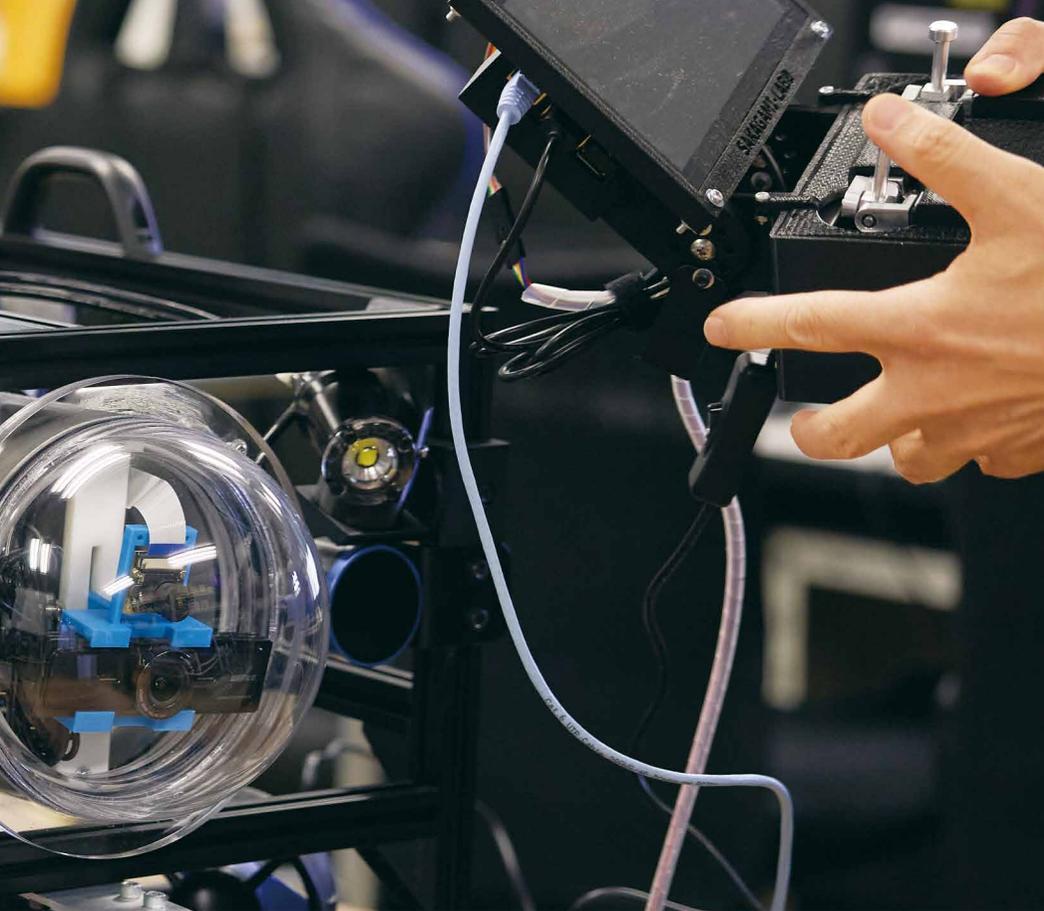
## 安全のための水中ロボット実現が使命

先立って坂上教授は静岡商工会議所から依頼を受け、船舶や港湾施設などのメンテナンスを担う水中ロボットの研究・開発の準備に着手した。水面及び水中の構造物の保守点検・清掃は、多くの場合、ダイバーが潜水して作業をおこなうが、重労働のうえ、危険が伴うことから水中ロボットでの代替が求められている。「自動アシスト技術も駆使すれば、より効率的で安全性の高い作業を実施できます」と、坂上教授は構想を膨らませる。

新たな研究・開発だけでなく、坂上教授が携わる水中ロボットは、すでに実用化されて

いる。その一つが水中遺跡の調査用ロボットだ。沖縄県石垣市での海底遺跡調査では水中ロボットに複数台のカメラを搭載し、多方向から撮影した4,000枚にも及ぶ画像を3D化。考古学者だけでなく、地元の人や観光客が潜水しなくても神秘的な遺跡の全容を鑑賞できるようにした。また、琵琶湖北部の葛籠尾崎(つづらおざき)湖底遺跡では、10世紀以降の古い時代の土器と推測される遺物を発見、撮影に成功している。ただ、坂上教授はこれに満足せず、飽くなき探究心を燃やす。

「AIが格段に進化しているとはいえ、自律型水中ロボットが遺物かどうかを判別して採取することには至っていません。一方、遠隔



操作型の水中ロボットは、オペレーターの負担が課題です。ロボットアームなどを利用した遺物の回収機能についても、早い実用化を進めています。現地の調査やテストでは、当日の気温や湿度、研究室からの移動や船上での振動など、精密機器にとって大敵の条件をクリアしなければならない。浮力を調整するためロボットを水中に潜めるだけに終日費やした経験もあるという。「だからこそ、水中を自在に動いてくれた時の感動と達成感は言葉になりません」と、満面の笑みを見せた坂上教授。活用する人々の安全と安心を何よりも重視し、水中ロボットと人間とのより良い関係も構築していく。



#### 坂上 憲光

2003年立命館大学大学院理工学研究科博士後期課程総合理工学専攻修了。立命館大学理工学部助手、東海大学海洋学部准教授、同教授、人間文化研究機構共同研究員等を経て、2023年より龍谷大学先端理工学部教授。専門は水中ロボット工学。ダイバーに代わる作業を実現する水中ロボット技術の開発に焦点を当て、効率のかつ経済的な水中ロボット技術を開発。船底調査やダム検査、水中考古学調査などの分野で実証実験をおこなう。

# 06 Event Ryukoku Museum

## ほとけに従うものたちの多種多様な姿と 存在意義に光を当てる

秋季特別展

『眷属（けんぞく）』

2024年9月21日（土）～11月24日（日）

休館日：月曜日、9月24日（火）、10月15日（火）、11月5日（火）  
<9月23日（月）、10月14日（月）、11月4日（月）は開館>

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、京都新聞、朝日新聞社  
特別協力：浄土真宗本願寺派、本願寺

「眷属（けんぞく）」という存在をご存知だろうか。眷属とは、仏や菩薩など信仰の対象となる主尊に付き従う者たちのことである。仏法を守護したり、主尊のパワーを示したりするために、絵画や彫刻といった仏教美術の世界では主尊のまわりにあらわされている。例えば、多くの人々によく知られている八部衆の阿修羅も釈迦如来を守る眷属だ。

龍谷ミュージアムは、普段は主尊の影に隠れがちな眷属たちにスポットライトを当てたユニークな展覧会を企画。2024年1～2月に開催した特集展示『眷属—ほとけにしたがう仲間たち—』では、仏教美術の名脇役たちの個性的な姿が好評を博し、内容を大幅に拡大しての秋季特別展が決定した。「今までになかった展覧会ということで、『ウチが所蔵する眷属もぜひ紹介して』と、多くの寺院が快く出品くださいました」と、本展覧会の企画者の1人である、リサーチアシスタントの見学知都氏は、国宝をはじめ貴重な作品を紹介できることを喜ぶ。

展示は4章立てで、第1章では、京都・誓願寺蔵の『仏涅槃図』などを通じて、眷属とは何か、どのような役割を果たしているのかを理解していく。第2章は、四天王や、薬師如来の十二神将、千手観音の二十八部衆など、眷属界のスター的存在を紹介。第3・4章は、不動明王の八大童子をはじめ、子どもと鬼や動物といった異形の眷属など、本展覧会の骨子ともいえる作品を集めた。

主尊と違って眷属の表現方法は自由度が高く、表情も衣裳などもバラエティ豊か。あまり知られていない眷属は違う姿で複数の作品に登場していることもあるという。「眷属を数多く描くことは、中央のほとけの威厳をわかりやすく示すために有効だったのかもしれませんが。また主尊が同じでも、メンバーや姿によって作品の意味が変わるなど、眷属の役割は意外に重要です」と見学氏。様々な姿、形の眷属たちから、仏教と仏教美術の奥深さを堪能してほしい。



龍谷ミュージアム  
Webサイト

見学 知都世 龍谷ミュージアム リサーチアシスタント



大威徳明王像（部分） 絹本着色 鎌倉時代 霊雲寺（東京）（展示期間：9月21日～10月20日）

# 07

## Connect, Unlimited 龍谷大学をつなぐ対談

ソフトバンク株式会社  
法人統括 デジタルエンジニアリング本部  
デジタルエンジニアリング第3統括部 統括部長  
村田 拓郎 ×

龍谷大学 副学長  
松木平 淳太

### 学生の斬新なアイデアに驚き “龍谷DX”を推進するハッカソン開催

2023年12月15日、龍谷大学は本学のDXの連携・共創を目的にソフトバンク株式会社（以下、ソフトバンク）と包括連携協定を締結。第1弾の連携事業として瀬田キャンパス3学部による「ハッカソン<sup>※</sup>」を2カ月にわたって開催した。企画・主催にあたったソフトバンクの村田氏と松木平副学長がハッカソンでの学生の様子や連携・共創の展望を語り合った。

**松木平：**私は瀬田キャンパスが本学のDXを主導していきたい思いがあり、村田さんに相談したところ、本学初の開催となるハッカソンを提案いただきました。

**村田 拓郎** 2003年日本テレコム株式会社（現ソフトバンク株式会社）入社、ソリューションエンジニアとして、法人向けインフラ基盤に対して、企画段階のコンサルティング、導入フェーズのプロジェクトマネジメントを担当し、SE部長、SE統括部長を歴任。2023年度より、デジタルエンジニアリング第3統括部長として、顧客DX推進を担当。

**村田：**瀬田キャンパスには3Dプリンタなどが揃う施設・STEAM commonsがあり、アイデアを実際のカタチにできます。プレゼンテーションで終わりではなく、面白くて達成感のある「モノづくりのハッカソン」になると思ったのです。

**松木平：**テーマは「学生が考えるスマートキャンパス」。学生生活の課題を解決する、瀬田キャンパスを活性化するためのアイデアを創出し、プロダクトやサービスを完成させることがゴールです。先端理工学部の学生が応募の中心になると思いきや、農学部、社会学部の学生も多数立候補してくれたので、アットランダムに32人を選び、8チームに編成しました。

**村田：**そこに弊社のエンジニアがアドバイザーとして1人ずつ加わりましたが、若手だけでなく、マネージャークラスも人選しました。

4 質の高い教育を  
みんなに17 パートナシップで  
目標を達成しよう

社会では多様な人との協働が必須で、それを体感できる機会にもなると考えたからです。

**松木平**：ハッカソンは、何を完成させるか各チームがアイデアを出し合う「STEP1: アイデアソン」からスタートしましたが、その時がほぼ初対面だったにも関わらず、瞬間に一丸となって熱い議論を繰り広げていましたね。

**村田**：私は学生たちが主体的かつ積極的に発言していることにびっくりし、アイデアの発表会では「すごいモノができそうだ」とワクワクしました。弊社8人のメンバーも「気持ちも思考も若返った」「これからが楽しみ」と、学生たちから大いに刺激を受けたようです。

**松木平**：モノづくりに取り掛かる「STEP2: ハッカソンday」「STEP3: ハッカソンday2」は2週

間チームで実施しましたが、学生たちは開催当日までアイデアを突き詰め、STEAMコンテストにこもりっきりでしたね。

**村田**：各チームの弊社メンバーにも質問や確認のメールが頻繁にあったようです。

**松木平**：多数の専門書や資料を抱えて挑む学生からは情熱が伝わり、感銘を受けました。

※ハッカソン (Hackathon)：プログラムの改良を意味するハック (hack) とマラソン (marathon) を合わせた造語。IT 技術者がチームを組み、与えられたテーマに対して、期限内にソフトウェアやサービス、プロダクトを開発。画期的なアイデアや技術などを競い合うイベントのこと。

**松木平 淳太** 東京大学工学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修士課程物理工学専攻修了。1992年より龍谷大学理工学部数理情報学科に着任、2004年より同学部教授。先端理工学部開設にあたって尽力し、2020年4月同学部開設に際し、先端理工学部長を務める。2021年より龍谷大学副学長に就任。



**松木平:**初開催ながら、「そうきたか」と膝を打つアイデアが続出し、手応えを感じました。

**村田:**私も同じです。大学帰りの暗い夜道を解消するプロダクトや、学生食堂の混雑状況や空席をチェックするアプリ、講義の空き時間に待機する場所や一緒に過ごす仲間を探すアプリは学生ならではの発想です。ロボット開発や瀬田キャンパスの噴水でのプロジェクトマップの企画は、短期間で完成が厳しいにも関わらず、何とか実現しようと、試行錯誤している姿が印象的でした。

**松木平:**共通の興味や趣味を持つ学生が集い、サークル設立などに活かすプラットフォームの形成もありそうではなかったですね。

**村田:**LINEの友だちなどは既知の繋がりから関係性を構築していきますが、このプラット

フォームや空き講義のアプリは学内での未知の出会いにフォーカスしています。学生は新たな繋がりを求めているのかもしれないね。

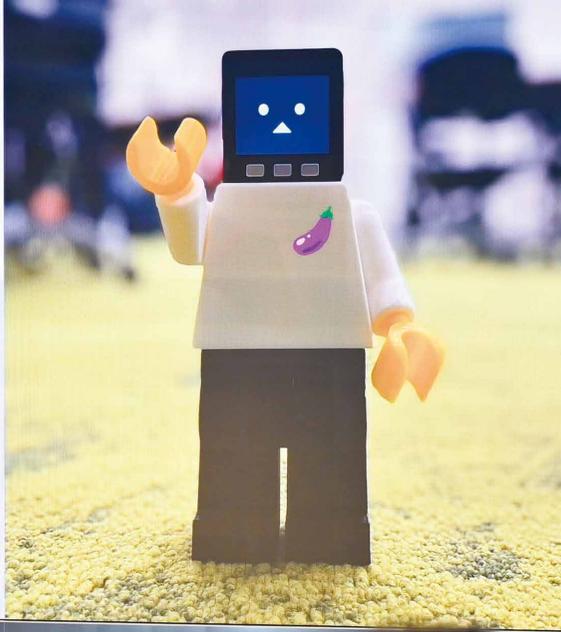
**松木平:**瀬田キャンパスだけでなく、本学は横断的かつ多様性に富んだ総合大学をめざしています。ハッカソンでも多様性を重視しました。こういったアイデアやプロダクトもめざす方向に活かされていくと思います。

**村田:**「スマートキャンパス」という、やや抽象的なテーマでしたが、学生自身の悩みや困りごとから着想し、カタチにしましたね。弊社は社会課題の解決に日々取り組んでいますが、学生たちのように身近な課題に目を向け、気づくことの大切さを再認識しました。

**松木平:**社会課題解決は、全学的な目標です。学生たちも本学のマインドを理解し、実現に

## ② ナスたろう

～情報提供ロボット～



STEP4:最終プレゼン大会で発表する学生たち

### 【使用ツール】

- ・M5Stack BASIC
- ・UI-flow Web IDE (プログラミングApp)
- ・Bambu Lab (3Dプリンター)
- ・Bambu Studio (3Dプリンター用App)

向けて、日々の学修や研究に取り組んでいることがハッカソンでも現れたと思います。

**村田:**ゼロからのモノづくりでは失敗があったはずですが、しかし、失敗してこそ、成功を得られます。なので、企画から設計・開発、実装に至る失敗・成功のプロセス、期限までに成果を出す時間軸を今、体験・実践できたことは貴重です。思考力や問題解決力も鍛えられたでしょう。これらすべてが社会での活躍のスピードを速めるのではないのでしょうか。

**松木平:**学生の知識、技術、そして経験値が上がったことは間違いありません。これを今後の学びや研究、将来に活かしてほしいです。

**村田:**弊社としても学生のリアルな姿や能力を間近にできることは優秀な人材の発掘・採用に繋がると思います。

**松木平:**私たち大学側は、面接ではアピールしきれない学生一人ひとりの真の能力を判断いただけると、大変ありがたいです。

**村田:**今後も龍谷大学とのハッカソンを続けていきたいです。弊社だけでなく、他の企業や大学ともジョインしていければ、より有意義なハッカソンとなり、様々な社会課題解決にも結びつくと考えます。

**松木平:**もちろん、継続していきましょう。ソフトバンクとの連携・共創によって、さらに魅力的な龍谷大学を築き上げていきます。



スマートキャンパスハッカソン特設サイト  
<https://www.ryukoku.ac.jp/hackathon>



# 08 My Campus マイキャンパス

# My Campus

タイトル「Green Deck」

Kさん 2024年4月撮影(瀬田キャンパス)

「My Campus」ページでは、時代の流れとともに変わりゆく龍谷大学の「今」を感じていただけるキャンパス風景写真を、読者の皆さまから募り紹介しています。キャンパスの素敵な瞬間を是非写真に収めてご応募ください。

応募写真の中から厳選の上、次号の本ページを飾らせていただきます。

## 応募締切

2025年1月6日(月)

## 募集内容

龍谷大学のキャンパスを撮影した写真  
(本学と関連のある場所・施設等)

## 応募方法

以下のフォームからご応募ください。

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/mycampus/>



## 注意事項

- ・2024年9月以降に本人が撮影した写真に限ります。
- ・1点につき10MB以内のjpgファイル。
- ・誌面の都合上、掲載は横サイズのトリミングとなります。撮影の際にはご注意ください。
- ・組写真、合成写真、過度の画像補正など実像に反する写真は不可。
- ・著作権・肖像権の侵害には十分に注意してください。
- ・応募に係る個人情報は本事業以外には利用しません。
- ・応募写真につきましては、龍谷大学が広報活動のために自由に利用できる権利を許諾していただきます。

応募写真は以下から閲覧していただけます。

龍谷大学の「今」を是非ご覧ください。

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/mycampus/>



## 最新情報



### 「第47回全日本アンサンブルコンテスト」 吹奏楽部 サクソフォン四重奏が金賞受賞 日本トップレベルの実力を証明

吹奏楽部のサクソフォン四重奏メンバー（3年生1人、2年生3人）は2024年3月に関西代表として群馬県の高崎芸術劇場で開催の「第47回全日本アンサンブルコンテスト」（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催）に出場。サクソフォン四重奏の名曲、A.デザンクロ作曲「サクソフォン四重奏より第三楽章」を演奏し、見事金賞を受賞した。金賞受賞は2年連続通算10回目。メンバーが練習で意識した「一糸乱れぬ一体感」は音色と気持ちを一つに重ね会場に響いた。



### 卓球部男子が悲願の優勝を飾る 34年ぶりのリーグVを掴む 関西学生卓球連盟 春季リーグ戦 男子1部

2024年5月、YMITアリーナ（くさつシティアリーナ）等で「令和6年度関西学生春季卓球リーグ戦」男子1部が開催。卓球部男子は関西学院大学、同志社大学と6勝1敗で並ぶ大混戦の三つ巴を制し1990年秋季以来、64季、34年ぶりとなるリーグ優勝を果たした。（2020年春季、2021年春季秋季は中止）また、篠原明伸選手（政策学部4年・スポーツサイエンスコース）は殊勲賞と優秀選手賞を、西坂優也選手（政策学部2年）は優秀選手賞を受賞した。



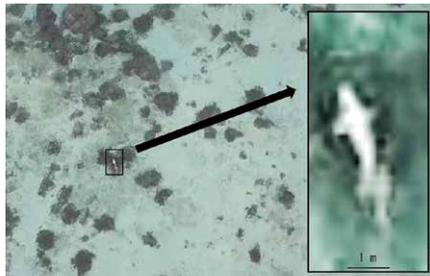
### 「2024世界ジュニア柔道選手権大会」 女子78kg級で中野弥花選手が優勝 体格差のある対戦相手を技で制覇

2024年6月にオーストリアのグラーツで開催された「世界ジュニア柔道選手権大会」の個人戦に女子78kg級で柔道部の中野弥花選手（政策学部1年）が出場し見事優勝を飾った。初戦、2回戦を勝ち進み、準決勝でハンガリーの選手を相手に寝技で抑え込み一本勝ち。決勝ではオランダの選手相手に延長戦にもつれたが、最後は寝技の抑え込み技ありで試合終了。対戦相手は体格差のある選手ばかりだったが4試合を我慢強く戦い抜き勝利を獲得した。



## 艇端部 野村・奥村ペアが日本一に輝く 「第102回全日本ローイング選手権大会」 男子軽量級ダブルスカル

2024年6月、海の森水上競技場（東京都江東区）で開催された国内すべてのカテゴリーが集う国内最高峰の大会「第102回全日本ローイング選手権大会」の男子軽量級ダブルスカルで艇端部の野村裕貴選手（社会学部4年）と奥村晋太郎選手（同3年）のペアが全国優勝を果たした。予選レースは終始リードを奪い全体トップで通過。決勝レースでは前半リードを奪われたが中盤で一気にトップに立ちそのままリード。全日本選手権優勝のゴールを決めた。



## 絶滅危惧種の哺乳類「ジュゴン」が 琉球列島に生息している科学的証拠を公表 先端理工学部丸山教授らの共同研究グループ

2024年4月、沖縄県環境科学センター総合環境研究所の小澤宏之所長、龍谷大学先端理工学部の丸山敦教授らの共同研究チームは、2019年以降に地域絶滅した可能性が高いとされていた南西諸島の海棲哺乳類「ジュゴン」について、野外で採取した糞のDNA分析や遊泳個体の目撃情報から、現在も琉球列島に生息している可能性を明らかにした。宮古諸島では約半世紀ぶりの生存を確認。本成果は英オンライン総合学術誌『Scientific Reports』に掲載された。



## Clarivate社 InCites Benchmark and Analytics 国際関係分野で 清水教授の研究業績が日本第2位に

世界的な研究情報を提供するClarivate社のInCites Benchmark & Analytics（研究指標を分析し研究者の業績を評価するツール）によると、2024年5月17日現在、国際学部の清水耕介教授が、2018年以降の過去6年間の研究業績で日本の国際関係分野ランキング同率2位となった。これはH-Indexと呼ばれる指標を基にしたもので、清水教授の仏教SDGsと物理学の量子論を組み合わせた国際関係理論が世界的に幅広く引用されていることを表す。



## 滋賀県湖南市と「健康づくり習慣化の推進」 に関するパートナーシップ協定を締結 産学官5者連携で健康まちづくりをめざす

2024年6月、龍谷大学社会学部井上辰樹研究室は、滋賀県湖南市、タニタヘルスリンク（東京都港区）、RIZAP（東京都新宿区）、ABC Cooking Studio（東京都千代田区）と連携協定を締結。湖南市民の健康づくりの習慣化に取り組む。主に運動実施率の向上をめざし、強みのある各分野で連携・協力し、運動への無関心を好奇心に変え、健康ポイント事業や魅力ある運動・食の講座を通じて、楽しみながら自然に運動習慣が身につくモデル事業を展開する。



## 子どもを見守る保育者に向けて 子育て家庭の孤立に向き合うヒント集 『「子育て」のトリセツ』を発行

龍谷大学社会的孤立回復支援研究センター「子育て家庭ユニット」は、2022～2023年度の2年間にわたる共同研究の成果として『「子育て」のトリセツ～がんばるワタシの応援バンフ～』を2024年3月に発行した。本誌は新任の保育者を想定した内容で、児童虐待と保育者の役割や気付きのポイント、保護者との関わり方や相談窓口など多岐にわたる。また保育者自身の心や身体をいたわるセルフケアのヒントやレシピ等も掲載している。



## 大好きな一冊の魅力を語り合う 「第7回全国中学ビブリオバトル決勝大会」 瀬田キャンパスで開催

中学生がお薦めの一冊を紹介しあう書評合戦「第7回全国中学ビブリオバトル決勝大会」(活字文化推進会議主催)を2024年3月に瀬田キャンパスで開催。本学は特別協力の立場で大会運営に携わった。関西初の本大会には、全国各地の大会優勝者や各校代表者ら46人のバトルヤーが出演。6人が決勝に進出し、最終4人が入賞。『アリス殺し』を紹介した福島県・田島中学校の細井みず保さんは龍谷大学賞に選ばれ、安藤副学長から賞状と記念品が授与された。



## 「龍谷大学おしえて!センパイプロジェクト(ROSP)」 アミューズ社長中西氏とブラマヨ小杉氏が 新入生へ笑いとおエールを届ける

2024年4月に深草キャンパスで新入生を歓迎するトークイベント「君たちは大学時代をどう生きるか～受験勉強と共に夢を語り合った二人からの挑戦のススメ～」を開催した。株式会社アミューズ代表取締役社長の中西正樹氏(1998年文学部卒)と30年来的親友でお笑い芸人ブラックマヨネーズの小杉竜一氏(吉本興業)が登場。2人は予備校での出会いから飛躍の道のりを振り返り、時に爆笑をさらいながら出会いの重要性を500人の新入生へ熱く語った。



## ムスリム等の学生・教職員のための礼拝室を 深草キャンパス4号館3階に開設

イスラム圏の留学生約30人が在籍し、シリアからの避難民学生1人を受け入れている。本学の「DE&I」推進の一環として、学生の声にこたえ留学生寮に設置している礼拝室に加え、新たに深草キャンパスにも礼拝室を設置した(2024年4月)。男女別に各2人程度が利用できる部屋型空間で、礼拝スペース、足洗い場、イス、マット、入り口表示を備える。本施設は特定の宗教に限定せず、誰もが利用できる信仰のスペースとして宗教的多様性に最大限配慮している。



## 龍谷大学ブランディングプロジェクトで ブランドパートナーのインターブランドジャ パンがリブランディングの国際賞を受賞

2024年4月、龍谷大学ブランディング事業が「REBRAND 100 Global Awards 2024」でMeritを受賞した。このアワードはリブランディングにフォーカスをあてた唯一の国際賞。本学はブランドパートナーの株式会社インターブランドジャパン(東京都港区)とともに2021年に「Less Me More We」等のメッセージを伝える仕組みを開発。赤を基調とした大胆でミニマルなデザインとメッセージ性で、社会課題に積極的に立ち向かっていく姿勢を表現した。



## 芥川賞受賞作家「綿矢りさ氏 特別講演会」 龍谷大学読書教養講座を開催

2024年6月に大宮キャンパスで作家の綿矢りさ氏を招いて特別講演会を開催。約300人の在学学生・教職員が参加した。京都市出身の綿矢氏は高校生から小説の執筆を始め、早稲田大学在学中に芥川賞を受賞。講演会では安藤徹副学長(文学部)との対談や文学研究科生とのトークセッションで「綿矢ワールド」と呼ばれる小説の方法論や執筆の裏側などを、京都弁ではんまりとユーモアを交えながら語り、会場の誰もが作家の言葉に聞き入った。



## 電動アシスト付き自転車 シェアモビリティサービス「CLEW」を導入 瀬田キャンパスで多様な移動手段を提供

龍谷大学は株式会社Clew(京都市)と株式会社ドコモ・バイクシェア(東京都港区)と提携して、2024年4月より瀬田キャンパスでシェアモビリティサービス「CLEW」の運用を開始した。瀬田キャンパス内に2カ所、JR瀬田駅前専用バス停に1カ所のポートを設置し30台の電動アシスト自転車を配置。学生は坂道を気にせずにキャンパス間だけでなく、周辺の滋賀県立美術館やびわこ文化公園などの近隣施設にも気軽に足を延ばすことができるようになる。



## 龍谷大学生へ拡充した食支援を実施 親和会(保護者会)の学生応援企画 「百縁夕食」を拡充し朝食とサラダも提供

昨今の物価高騰の影響を受けている学生への支援として、親和会(保護者会)の助成を受けて2024年6月から7月の期間、安価で栄養バランスのとれたメニューの提供を実施。2021年のコロナ禍で提供した「百縁夕食」を拡充して「百縁朝食」「親和会サラダ」を追加。「百縁朝食」は朝の勤行と法話の参加学生へ朝食券(400円分)を配付。農学研究科生が開発したメニューを含む「親和会サラダ」は昼食時に通常料金の半額、1食60円で提供した。



## 経営学部商学科、社会学部総合社会学科、心理学研究科を2025年4月に開設 新たな価値を創造し提供する大学へ

2025年4月の開設に向けた設置届出が文部科学省に受理された。本事業は長期計画「龍谷大学構想400」における諸改革の一環としておこなわれる。経営学部は新しく「商学科」を開設して2学科制に。社会学部は瀬田キャンパスから深草キャンパスに移転し、社会学と社会福祉学を融合した「総合社会学科」に改組。文学研究科臨床心理学専攻はその実績を拡充する「心理学研究科」として新設。これら3つの新学科・新研究科開設により新たな教学を展開する。



## 先端理工学部の学生チームが「第20回ACジャパン広告学生賞」奨励賞受賞

ACジャパンが主催する「第20回ACジャパン広告学生賞」テレビCM部門で、先端理工学部知能情報メディア課程4年生4人の学生チームが、コラボレーション演習で制作した動画作品「デジタルタトゥーが見える世界」により、奨励賞を受賞した。全国の大学や専門学校から266作品がエントリーされ、多数の応募作品の中から受賞が決定。本学生の受賞は8回目となった。



受賞作品動画 (YouTube) <https://youtu.be/2wYMJ3njEXc>



## 京の老舗に経済学部生たちが果敢に斬り込むフィールドワークの記録を出版 「あなたの知らない京の老舗シリーズ」始動

京都府および「京都老舗の会」協力のもと、100年以上続く企業の秘密を探求する「プロジェクト型授業」を展開する経済学部が、2024年5月に『ツカキグループ「三宝よし」の近江商人』（龍谷大学経済学部編・新評論）を出版した。学生たちは老舗の秘密に迫るため暖簾をくぐり、経営者や経営幹部、社員らヘインタビュをおこないその実像に迫った。老舗が世代を超えて繋いできた「知」を多くの方々と共に共有するためのシリーズ第一弾となる。



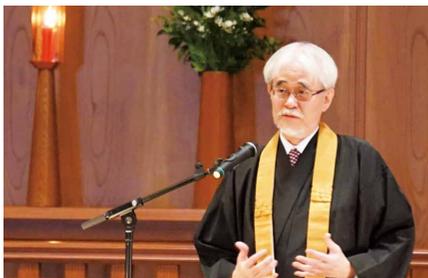
## 「2024NEW環境展」に出展 先端理工学部や農学部の研究シーズ展示

2024年5月22日から24日までの3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された「2024NEW環境展」（日報ビジネス主催）。最新の環境リサイクル機器や地球温暖化対策の技術やサービスが一堂に会するアジア最大級の展示会で会場には700を超える国内外の出展者が集結し、累計9万人以上の来場者があった。本学は先端理工学部や農学部の3人の教授たちの各分野の研究シーズを展示。ブース来訪者は200人を超え多くの関心を得た。



## 山中裕樹教授が基調講演 「TASUKI - 禪 - Project」始動 高校生が水圏の生物多様性評価に挑戦

高校生が環境DNA技術を用いた水圏の生物多様性評価に挑戦する「TASUKI - 禪 - Project」のキックオフイベントを2024年6月に開催。プロジェクトに採択された関西2校と関東2校が参加し、研究活動のスタートを切った。研究面のアドバイスなどに関わる本学生物多様性科学研究センター長の山中裕樹教授が基調講演をおこない、仮説検証型と発見型の研究アプローチを紹介し、生物多様性評価の重要性を解説した。研究期間は2025年12月まで。



## 「The Worldfolio」のWebサイトおよび 『Newsweek』（国際版）に本学の記事が掲載

入澤崇学長が英国通信会社The Worldfolioからインタビューを受け、取材記事が国際的ビジネス週刊誌『Newsweek』（国際版）2024年7月5日号およびThe Worldfolio社のWebサイトに掲載。記事のなかでは、本学ならではの仏教精神で社会に貢献する様々な取組を中心に、ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターや龍谷ミュージアムなどを紹介している。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



## SDGsに対応した 「THEインパクトランキング2024」で 私大4位、西日本私大2位にランクイン

大学の社会貢献度を国連の持続可能な開発目標（SDGs）の枠組みを使って可視化する「THEインパクトランキング2024」（英タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）社）が2024年6月に発表され、龍谷大学は総合順位世界「401-600位」（2023年同位）、日本国内私立大学「4位」（2023年5位）、西日本私立大学「2位」（2023年同位）にランクインした。構想400のもとで本学が様々な展開してきた活動が高く評価された結果といえる。



## 「第11回 全国学生女子相撲選手権大会」 矢口愛利菜選手が堂々の初優勝を飾る 女子相撲のインカレ中量級

女子相撲の大学日本一を決めるインカレ「第11回全国学生女子相撲選手権大会」が2024年6月に日本大学相撲部相撲場（東京都杉並区）で開催。全国から過去最多の13校計24人の選手が戦いを繰り広げた。相撲部の2023年世界ジュニア選手権金メダリスト、矢口愛利菜選手（短期大学部1年）は無差別級トーナメントでは惜しくも2回戦敗退となったが、中量級（73kg未満）では寄り倒し、上手投げて勝ち進み見事全勝優勝に輝いた。

# 10 Book Café

## 新刊紹介

※は大学から出版助成を受けた書籍です。  
著者編者等は本学関係者のみ、お名前を掲載しております。



龍谷大学仏教文化研究叢書48  
**歌合の本質と展開**  
中世・近世から近代へ  
安井 重雄 (文学部教授) 編  
法蔵館/6,050円 (税込)

\*



龍谷大学仏教文化研究叢書49  
**『大乗莊嚴經論』第三章の和訳と注解**  
菩薩の種姓  
早島 慧 (国際学部准教授) 編  
若原 雄昭 (元文学部教授)・  
能仁 正顕 (文学部教授) 著訳  
法蔵館/3,300円 (税込)

\*



龍谷大学仏教文化研究叢書50  
**石山寺蔵 靖邁撰**  
**『仏地経論疏』巻一の翻刻と訓読**  
長谷川 岳史 (経営学部教授) 共編  
法蔵館/3,850円 (税込)

\*



龍谷大学仏教文化研究叢書52  
**欧文反省雑誌 復刻版**  
(第1巻・第2巻)  
中西 直樹 (文学部教授) 編著  
三人社/55,000円 (税込)

\*



龍谷叢書63  
**近代仏教復興の黎明と挫折**  
本願寺派普通学校と反省会の興亡  
中西 直樹 (文学部教授) 著  
三人社/5,280円 (税込)

\*



龍谷大学社会科学研究所叢書 第142巻  
**コンパクトシティの経済分析**  
西垣 泰幸 (経済学部教授) 編著  
日本経済評論社/4,730円 (税込)

\*



龍谷大学社会科学研究所叢書 第143巻  
**食と農のソーシャル・イノベーション**  
持続可能な地域社会構築をめざして  
大石 尚子 (政策学部教授) 編  
藤原書店/4,840円 (税込)

\*



龍谷大学社会科学研究所叢書 第144巻  
**途上国における幼児期の子どもの発達**  
ラオスを題材に  
神谷 祐介 (経済学部准教授) 編著  
日本評論社/5,940円 (税込)

\*



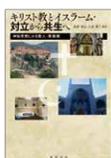
龍谷大学社会科学研究所叢書第145巻  
**デジタル時代における消費者法の現代化**  
中田 邦博 (法学部教授) 共編  
日本評論社/7,920円 (税込)

\*



龍谷大学社会科学研究所叢書 第146巻  
**ケアという地平**  
介護と社会保障法・労働法  
武井 寛 (法学部教授)・  
嶋田 佳広 (法学部教授) 編著  
日本評論社/6,820円 (税込)

\*



龍谷大学国際社会文化研究所叢書第33巻  
**キリスト教とイスラーム・対立から共生へ**  
神秘思想にみる聖人・悪魔観  
佐野 東生 (国際学部教授)・  
久松 英二 (国際学部教授) 編著  
晃洋書房/3,850円 (税込)

\*



**反革命のフランス近代**  
王党派・教会・貴族からみた新たな歴史像  
上垣 豊 (龍谷大学名誉教授) 著  
昭和堂/6,380円 (税込)

\*



### 『監獄の誕生』と刑罰学の言説

赤池 一将 (元法学部教授) 著  
法律文化社 / 7,040円 (税込)

\*



### 丹後ちりめん農家の営み 1927-1930

小農・機織・「助力(手助)」  
佐々木 淳 (経済学部教授) 著  
晃洋書房 / 4,180円 (税込)

\*



### 豆類の百科事典

石原 健吾 (農学部教授) 共著  
朝倉書店 / 14,300円 (税込)



### 持続可能な社会と人の暮らし

石原 健吾 (農学部教授) 共著  
建帛社 / 2,310円 (税込)



### 社会・環境と健康2024-2025

石原 健吾 (農学部教授) 共著  
南江堂 / 3,740円 (税込)



### 事例から学ぶ、事例でわかる 大学教職課程事務

小野 勝士 (事務職員) 共編著  
ナカニシヤ出版 / 2,970円 (税込)



### 山よりほかに友はなし

マヌス監獄を生きたあるクルド難民の物語  
友永 雄吾 (国際学部准教授) 監修・監訳  
明石書店 / 3,300円 (税込)



### 自治体政策学

南島 和久 (政策学部教授) 共編著  
法律文化社 / 3,520円 (税込)



### もっと問いかける法哲学

橋本 祐子 (法学部教授) 共著  
法律文化社 / 2,750円 (税込)



### Native-Speakerism and Trans-Speakerism

Entering a New Era  
平塚 貴晶 (国際学部教授) 著  
Cambridge University Press / 130USD



### 西に流れる川

一ロバート・フロスト詩集—  
藤本 雅樹 (龍谷大学名誉教授) 翻訳  
小鳥遊書房 / 2,530円 (税込)



### 法と言語 改訂版

法言語学へのいざない  
札埜 和男 (文学部准教授) 共著  
くろしお出版 / 2,970円 (税込)



### 熊楠さん、世界を歩く。

冒険と学問のマンダラへ  
松居 竜五 (国際学部教授) 著  
岩波書店 / 2,530円 (税込)



### システムズアプローチで考える 「発達障がい」

関係性から丸ごと支援する  
吉川 悟 (心理学部教授)・  
赤津 玲子 (心理学部教授)・  
志田 望 (心理学部講師) 共著  
金子書房 / 2,420円 (税込)

## ReTACTION Radio (リタクション・ラジオ) 配信開始

龍谷大学では、Podcastでの新番組「ReTACTION Radio (リタクション・ラジオ) ~知とビジネスと仏教の交差点~」(以下、ReTACTION Radio)を、2024年4月16日から配信しています。

「ReTACTION Radio」は、本学教員へのインタビュー形式で様々な学問分野の知見を探りながら、それがどのように社会に実装されているか、日本を変えていくのかを語っていくPodcastです。「仏教SDGs」を軸に、「利他」の哲学をもって、サステナブルな社会に貢献する研究・活動を紹介するウェブマガジン「ReTACTION」の音声コンテンツ版として位置づけています。

ビジネス系の音声コンテンツを数多く生み出すPodcast Studio Chronicleの代表である野村高文氏(音声プロデューサー／編集者)とのコラボレーションで、MCは、シーズン1(4月-7月)はビジネスウェブメディア「NewsPicks」元編集長で、ノンフィクションライターの泉秀一氏が務め、シーズン2(9月-)からは、ラジオDJ、MC、テレビの司会者、声優、クラブDJとして幅広く活躍中の大抜卓人氏が務めています。

ReTACTION Radioは下記から聴取できます。

(毎週火曜日に新規コンテンツを配信)

Spotify : <https://open.spotify.com/show/4vAdkDTK8A18FAM8IKhHHO>

Apple Podcast : <https://podcasts.apple.com/us/podcast/id1740669630>

Amazon Music : <https://music.amazon.co.jp/podcasts/e6e489cf-817b-457c-ac4b-e6bf2e29abd2>



Spotify



Apple Podcast



Amazon Music

## 「Ryukoku-NaturePositive」

2024年3月に発出した『龍谷大学ネイチャーポジティブ宣言』のYouTube動画を制作しました。生物多様性の損失を食い止め回復させていく「ネイチャーポジティブ」を本学の取り組むべき課題の一つと位置付け、取組の更なる充実・発展をめざします。

<https://www.youtube.com/watch?v=e50C44p4Zdk>



## 広報誌「龍谷」98号読者アンケート&プレゼントのご案内

今後の広報誌づくりのため、皆さまのご意見をお聞かせください。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選でご希望の読者プレゼントが当たります。お寄せいただいた感想・近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

締切 2025年1月6日(月)

Web応募フォーム

<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



龍谷ミュージアム ペア招待券 … 10組20名様

### 読者プレゼント

ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部)および広報誌「龍谷」の感想・意見、近況などを書き添えてご応募ください。

※いただいた個人情報には広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

### 読者アンケートのあて先

龍谷大学 学長室(広報)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075 (645) 7882 FAX 075 (645) 8692

E-mail: [kouhou@ad.ryukoku.ac.jp](mailto:kouhou@ad.ryukoku.ac.jp)



経営学部藤岡ゼミ×(株)マンドリル  
レトルトカレー「ぶどう山椒をかけて食べるカレー」…5名様  
※3種類の中からいずれか1種類をお届け。

### 読者のひろば

お世話になった先生の記事をとても懐かしく拝見しました。

大学の現況を知ることができて、毎回楽しみにしています。

(卒業生 Kさん)

緑あふれる大学になり、びっくりしています。

平和になる人材の豊庫となるように念じてます。

(卒業生 Oさん)

### 広報誌「龍谷」のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧していただけます。冊子版の送付を希望されない方は、下記URLまたはQRコードからメールマガジン登録をお申し込みください。ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をお届けします。

広報誌「龍谷」デジタル版配信(メールマガジン登録)

<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>



広報誌「龍谷」デジタルライブラリー

(過去の広報誌もご覧いただけます)

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>



編集委員：井上 辰樹、木村 睦、野呂 靖、松永 敬子

事務局：田中 雅子、井原 健太、木村 友貴

広報誌「龍谷」98号

2024年9月20日発行

編集：広報誌「龍谷」編集委員会

制作：龍谷大学 学長室(広報)

発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075 (642) 1111(代表)

龍谷大学ホームページURL

<https://www.ryukoku.ac.jp/>





公式 X 「龍谷大学広報」

[X.com/ryukoku\\_univ\\_pr](https://x.com/ryukoku_univ_pr)



公式 Instagram 「龍谷大学」

[www.instagram.com/ryukokuuniversity](https://www.instagram.com/ryukokuuniversity)



公式 Facebook 「龍谷大学」

[www.facebook.com/RyukokuUniversity/](https://www.facebook.com/RyukokuUniversity/)



公式 YouTube 「龍谷大学」

[www.youtube.com/user/RyukokuUniversity](https://www.youtube.com/user/RyukokuUniversity)